

## 東京 IPO 特別コラム

---

2017年3月3日 Vol.71

### IPOラッシュに備えて

トランプ大統領の議会での施政方針演説がプラスに作用しNYダウやNASDAQが続いていますので、米国株で結構儲かったという投資家もお見えになるかと思いますが、マザーズやJASDAQなどに上場する日本の中小型株も負けてはいません。それと同様に日本のIPO市場も活況となっています。1-2月のIPOは6銘柄でしたが、それぞれに株価変動のパターンは異なりますが、概ね成果が高まっているものと推察されます。そしていよいよ3月には7日のロコンド(3558・マザーズ)を皮切りに22社のIPOが予定されています。1日に2社、3社がデビューする、まさにラッシュの様相を呈します。IPO銘柄に関心のある投資家の皆さんは既にIPOラッシュに向け、準備されているものと思います。

数が多いと心配になるのは需給です。実際にはホットマネーが吸収できるほどの相場展開となっており、公募で申し込みしようという投資家の皆さんが多いと思われます。銘柄数が多いのと放出株や公募株が多いと出回る株も多くなり需給が悪化する可能性もありますが、IPO銘柄の多くは業績拡大指向で比較的長期に保有しておけば高い成果が得られることが多い状況です。公開価格で申し込みして当たって初値で売却するというパターンよりもむしろ初値で買い乗せして大きくリターンを得ようとする投資家が多いのかも知れません。それでもIPOラッシュだと短期売りに徹するという投資家もお見えになるかと思います。

これまで本コラムから発信しましたように投資家の皆さんはIPO前に企業から発信される成長可能性に対する事前の公開情報やWEBサイト、東京IPOサイトなどを参考にして銘柄選びをされることになりませんが、最初はなかなか情報が限られていて評価が定まらないケースが多いと思われます。ですから評価が分かれて株価の変動も大きくなることになり。上場後は上場時の映像媒体や様々なIR活動を通じて企業の実体、ビジネスの内容を吟味し、売り買いを重ねることになるかと思います。中長期スタンスで保有すべきかどうか悩まれることになるでしょうが、IPO企業の成長性や足下の業績とPER、時価総額などの評価指標を見比べ、方針を決めていかれると良いでしょう。今後は東京IPOでもIPOしたばかりの企業にIRセミナーに出てもらいながら企業の認知度を高めていくお手伝いをしていくことになるかと思いますので宜しくお願いします。

まずは3月前半の取り組みとなりますが、22銘柄のうちマザーズ銘柄が13あります。このうち前半15日までに3銘柄(ロコンド(3558・マザーズ)、ピーバンドットコム(3559・マザーズ)、ファイズ(9325・マザーズ)がマザーズ市場に上場します。いずれもEコマース系企業で押し並べて上場後は堅調な推移が見込まれますが、靴とファッションの通販ビジネスのロコンド(3558・マザーズ)はやや放出株が多いのとVCが株主となっている点が気になりますが、若い社長に率いられており、一定の

## 東京 IPO 特別コラム

---

ブランド評価もあってIPO後の人気の高まりが期待されます。プリント基板のEコマース事業を展開するピーバンドットコム(3559・マザーズ)はまだ事業規模が小さく、相応に成長余力はあると思いますが、類似他社との比較ではやや割高感は否めません。3社の中ではアマゾン関連の3PLを手掛けるファイズが物流企業という評価の限界はありますが、放出株数も少ないことから今後の成長性への期待も手伝って投資家の関心を高める要素があります。3月前半の前哨戦を経て16日からはIPOラッシュが本格化します。皆さんとともにこれを見守って参りたいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)